



【平和学習講座】

11月22日(金)、全校生徒を対象に、被爆体験伝承者の六信静枝さんをお招きし、平和学習講座を実施しました。講座では、17歳の少女、竹岡智佐子さんが母親を見つけるまでに体験した6日間の体験談を語っていただきました。唯一の被爆国として戦争の悲惨さなどを風化させることなく、戦争について真剣に考えさせられる機会となりました。



被爆体験伝承者の六信静枝さん



生徒の質問の場面

～皆川美空さん(3-1)より～

戦争を知らない世代が増えていくと、また戦争が起きてしまう可能性はゼロではありません。戦争が起きないように、講話で聞いた「種」を、今度は私が周りの人に伝え、「花」を咲かせていきたいと思いました。

～荒井真愛さん(3-2)より～

今の日本は戦争や紛争もなく「平和」です。普通の暮らしができるこの状態を当たり前と思っはいけないと実感しました。そして戦争の悲惨さを風化させてはいけないと強く思いました。

【手話体験】

11月25日(月)、福祉コースの3年生を対象に茨城県聴覚障害者協会会長の会沢隆典先生を講師としてお招きし「手話体験」を実施しました。手話や聾学校の歴史について学ぶとともに、あいさつや自己紹介など基本的な手話や指文字を丁寧に教えていただきました。音声言語と同様、手話もコトバでありコミュニケーションツールであることを再認識する機会となりました。



会沢隆典先生の講義



手話体験の場面

～相田好花さん(3-1)より～

今回の活動から学んだことは、手話はジェスチャーではなく1つのコミュニケーションだということです。他の高校では学べないような貴重な体験をすることができました。また、手話を身近なものに感じることが出来ました。

【青少年をたたえる市民のつどい】

11月30日(土)、第15回 青少年をたたえる市民のつどいが常陸大宮市緒川総合センターで開催されました。本校からは小林美緒さん(3-1)が善行青少年賞を受賞しました。

小林さんは、学校から帰宅途中、歩道に運動着が落ちていたのを見て、きれいにたたんでメモと一緒にベンチに置きました。そのまましておかずにきれいにたたみ、メモまでつけて置いてくれたことに、落とし主は心が温まったそうです。地域に貢献できる人材に成長していることを知るエピソードのひとつです。

